

# JFA 第 48 回全日本 U-12 サッカー選手権大会 審判インストラクター研修について（報告）

山口 FA 杉山 崇

場 所 白波スタジアム、ふれあいスポーツランド

日 程 2024年12月25日（火）～28日（土）

参加者 U-18 審判員 島根県：小早川 稀、鳥取県：生田賢太郎、山口県：市村 響  
審判インストラクター 広島県：永戸宏樹、山口県：杉山 崇

## 【研修内容】

- ・令和6年11月13日、12月4日、12月17日、  
ZOOM による事前研修。

審判員 TEAM の目標

「選手たちが全力でプレーできる試合環境を提供  
できるようにチャレンジする」

この目標に向け事前準備をするために審判員、指導者への  
レクチャー。



- ・令和6年12月25日 16時ホテルへ集合  
17時から指導者のみ研修

JFA 高橋氏から今回、ユース審判員へ指導方法で  
アセスメント、評価ではなくやる気になるためのアドバイスを  
中心に指導するように説明がありました。



- ・12月26日

大会初日、グループに分かれ各会場で指導を実施。

1日目&2日目の審判員/審判指導者のグループ  
グループは審判員4名+審判指導者2名で組んでいます  
担当する試合は1日目の試合であるので、グループ名で登録してください

| グループ | 審判員   | 審判員   | 審判員   | 審判員   | 審判指導者 | 審判指導者 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| A    | 小早川 稀 | 生田賢太郎 | 市村 響  | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 |
| B    | 市村 響  | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 | 小早川 稀 | 生田賢太郎 |
| C    | 生田賢太郎 | 市村 響  | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 | 小早川 稀 |
| D    | 市村 響  | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 | 小早川 稀 | 生田賢太郎 |
| E    | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 | 小早川 稀 | 生田賢太郎 | 市村 響  |
| F    | 小早川 稀 | 生田賢太郎 | 市村 響  | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 |
| G    | 生田賢太郎 | 市村 響  | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 | 小早川 稀 |
| H    | 市村 響  | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 | 小早川 稀 | 生田賢太郎 |
| I    | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 | 小早川 稀 | 生田賢太郎 | 市村 響  |
| J    | 小早川 稀 | 生田賢太郎 | 市村 響  | 永戸宏樹  | 杉山 崇  | 高橋 浩一 |



夕食後、研修。

テーマ

「審判員に対しどんなサポートの方法があるのか」  
模造紙を使い各グループで意見出し合い、発表。  
審判員をその試合にマッチさせるために、U-12  
の試合を見て、審判員をみてについて話し合い  
サポート方法を発表しました。

自分たちのグループは、良いところを褒め、  
その試合で何が足りなかったのかを気づかせるようにアドバイスしながらサポートを  
するという意見でまとまりました。

各グループで意見は同じように褒めるは一致していました。



・ 12月27日

前日同様、会場にて各グループで指導。

1日目より2日目、各審判員は前日の指導で  
動き、気づき、パフォーマンスの進歩が見ら  
れました。



夕食後、研修

テーマ

「ユース審判員がこの大会へ準備することは」

前日と同様、グループで模造紙に意見を出し合い発表をした。

審判員の現在地、試合を担当するために、それにはどのような準備をするのか。

現在地についてはサッカーの知識不足、コミュニケーション能力不足、言葉使い。

試合を担当するためには、リーダーシップを取る、積極性、チャレンジ精神、競技規則  
の理解が必要。

この大会に準備することは

4種大会の経験、日常生活（話し方、接し方・・・）の準備が必要と話した。



大会最終日に残る審判員を除き他審判員を各会場で指導。

3日目になると審判員は自信を持ち初日に比べ成長が見られ自己分析できるようになっていました。

自分たちも改めて、指導の原点に戻ることができたと感じました。

審判員、指導者は午前で終わり各地域に帰路につきました。



#### ・まとめ

今回、私自身は5年前に続き2回目の参加となりました。研修の内容は多少変わってはいましたが、最終的に大会をユース審判員で無事に終えるということは変わりありませんでした。

4日間の研修でユース審判員が成長していく姿が気持ちよく感じました。中国地域から3名のユース審判員が参加し、理解度、向上心が芽生え1試合ごとに変化していきました。良い経験になったと思います。残念ながらラウンド8以降に残れませんでした。今後、決勝戦を担当できるような審判員の育成できたらと感じました。

各地域でもこの年代の育成は課題と聞きました。地域インストラクターと情報交換でき、有意義な研修でした。この経験活かし指導者の育成、ユース審判員の発掘など中国地域での活動に力を注ぎたいと思います。

この度、推薦をいただいた中国FA、山口FAに感謝します。次に参加される方のサポートができたと思います。貴重な経験をありがとうございました。



山口FA：杉山崇

JFA 第48回全日本U-12サッカー選手権大会 審判インストラクター研修 報告  
大会テーマ ～ユメへのトビラをコジアケロ。～

広島県 FA：永戸宏樹



日 程 2024年12月25日(水)～28日(土) 決勝は29日(日)

場 所 鹿児島ふれあいスポーツランド(1次ラウンド・交流戦・ラウンド16・フレンドリーカップ)  
鴨池補助競技場(準々決勝)  
白波スタジアム(準決勝・決勝)  
ホテルタイセイ・アネックス(宿舎)・よかセンター(研修)

参 加 者 U-18 審判員…32名(中国地域3名)  
地域 INS……………16名(中国地域 山口 FA：杉山崇 広島 FA：永戸宏樹)  
JFA INS……………10名

活動内容 1. 大会前の事前研修会【オンライン】

1回目

- 全体説明 ・大会までの準備 ・事務連絡 など
- ブレイクアウトルームにて中国地域審判員と INS 自己紹介や目標の共有
- INS のみのミーティング

2回目

- 全体説明  
大会に向けての準備
  - ・大会規定 ・1人制審判 ・グリーンカード など
- テクニカルセッション「サッカーから求められるもの(サッカーの4局面)」
- ブレイクアウトルームにて審判員と INS のディスカッション
- INS のみのミーティング



### 3回目

#### ○全体説明

- ・公式記録について
- ・過去の大会映像を振り返って

#### ○INS のみのミーティング



## 2. 本大会

U-18 審判員 4 名と地域 INS 2 名が一緒になり、チーム（合計 8 チーム）となり、1 つのピッチを任せられ、主審・補助審と審判インストラクターを交代しながら試合に臨んだ。

鹿児島に到着した 25 日（水）の夜の研修で、担当するユース審判員 4 名と地域 INS 2 名と 2 日間で受け持つ割当が発表された。また、事前研修でも言われていた

- 担当する審判員をそのゲームにマッチさせる指導を最優先すること
- ストロングポイントをしっかり伸ばすこと
- ハーフタイムでの指導は、後半がさらに良くなる、改善できるように、審判員に気づかせる指導を心がけること

を再度確認した。

### 大会 1 日目

ホテルを出発した後、バスに乗り会場に移動。時間的なゆとりが十分になく、すぐにピッチで使用するボール 4 球を大会本部に審判員たちが受け取りに行き、急ぎ早にフィールドチェックへ。審判員 4 名が協力し合いながら行っているところに指導者として同伴しながら、気づきを伝えたり、見る視点などをアドバイスしたりしながら周った。自分達の担当したピッチでは、ゴールネット 2 箇所に穴が空いており修繕を運営本部にお願いした。



しかし、前半終了後にゴールネットに穴があいているということが分かり、再度修繕を行った。キックオフ前に主審も補助審判員もゴールネットをチェックしていなかった点や他のピッチでは、試合前にチームから届出のあったメンバー表とキックオフ時に実際にピッチに立った先発メンバーが違っていたというミスもあったようで、審判団として限られた時間の中で 1 つ 1 つ丁寧に確認をしてやっぴいこうということを再確認した。

また、私が初めて指導を担当した試合で、DOGSO に該当する事象が起こった。（大会を通してただ 1 つだけ発生した退場となる）主審も落ち着いて判定し、慌てることなく退場者にピッチ外に出てもらい、選手の補充も行い再開することができていた。

私が指導させてもらった2試合もそうであったが、担当したグループのユース審判員4名のレベルは比較的高く、走力や基本的な動き、判定に関する基礎的なものはほぼ指導することなく、一人審判に必要な、横幅を広く動いて視野を確保する点や争点との距離を意識した動き出しを意識させることを中心に改善点を伝えた。

## 大会2日目

2日目は前日以上に寒い1日であった。ユース審判員達の動きも前日までの雰囲気や様子とは違い、気の引き締まった感じが伝わってくる朝であった。例えば、あいさつや1日目に自分達だけはうまくできなかったフィールドチェックもそれぞれが複数の目で細かなこと（コーナフラッグの傾き、ゴールネット、テクニカルエリアのマーカーの位置など）にも神経を注ぎ、審判団としての責任感を感じながら少し成長を感じながらスタートを迎えた。2日目のファーストゲームは、チームもリーグ戦の順位が決まる大事な試合や準々決勝の割当となるため、1日目の試合の温度がさら上がった状態で、点の取り合いになったり、1つ1つの攻防が激しさを増した感じが伝わったりした試合展開が多かった。また、チームの指導者の熱量も高くなったがゆえに、ユース審判員にとっては辛く苦い経験をした試合もあった。



19時30分から始まった夜の研修は、1日目同様に審判員と指導者が別々に分かれて研修を行なった。指導者は、グループディスカッションを行い「大会を担当するために準備してほしいこと・試合を担当するために・審判員達の現在地」の3つの視点から意見を出し合った。U12選手権大会を審判員として、指導者として成功させることが掲げられている中で、

- |                 |          |              |
|-----------------|----------|--------------|
| ○オフザピッチの姿       | ○フィジカル   | ○審判員としての経験値  |
| ○プレーヤーズファーストの精神 | ○情報収集力   | ○U12、一人審判の経験 |
| ○審判報告書の書き方      | ○競技規則の理解 | ○マネジメント、     |



など、グループから出た意見は、ほとんど同じような項目であった。全国大会に派遣され

る審判員として、ある程度の技量と経験はあってほしいという意見が多く、ユース審判員の育成の課題も見えたようにも思えた。

### 大会3日目

3日目は、選手権大会のベスト8以降の審判を担う6名とフレンドリーマッチを担うメンバーに別れての活動となった。この日は朝から雨が降り、試合も30分ごとに区切られるスケジュールという中で、両チームの指導者の方に「審判員に指導・アドバイスをさせてください。」と了承を得て、試合中により良いレフリングになるように声をかけたり、褒めたりを繰り返したりし、ユース審判員の成長に繋がる指導を行なった。



### まとめ

私自身がまだ審判インストラクターとしての経験が浅い中で、審判インストラクター3級として2024年度審判インストラクター2級養成研修の受講と重なる中で、本研修に参加することができ、多くのことを学ぶことができました。全国大会というレベルの高い試合が繰り返される中で、ユース審判員をその試合ごとにフィットさせること、試合ごとに成長を感じてもらえるように良さや成長してほしいことを審判員に気づかせ、自分の言葉で考えを言ってもらえるようにするために、自分はどんな表現をすれば理解してもらえるかを短時間で考えることの大切さに気づくことができました。

また、広島県サッカー協会4種委員会審判部長をさせていただいている中、全国レベルのサッカーを直接肌で感じることもでき、小学生年代のサッカーレベルのさらなる向上と審判員の育成にさらに取り組んでいきたいという思いを抱くことができました。この思い、この経験を活かし今後も活動を行っていきたいと思います。

最後になりましたが、大会に携わらせていただいたJFA・中国FA、広島県FAをはじめ、大会に関わり出会うことのできた鹿児島県FA、地域インストラクター・ユース審判員の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

